

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人 沖縄国際人材支援センター

1. 事業の概要

事業名称	沖縄県内在住「生活者としての外国人」のための地域日本語教育実践プログラム
事業の目的	沖縄県内在住の外国人が、日本語能力の不足によって誤解されたり、不利益を被ることのないよう、日本語力ならびに日本の文化習慣を学べる機会を作ることを通して、周囲の日本人にこうした在住外国人の存在を知らせ、彼らが抱える諸問題の解決のために日本人が積極的ににかかわっていただけるような体制を整える。特に今回、那覇市での教室を継続させるとともに、離島地域での日本語教室の充実に向けて、現地の有志と連絡をとりあい、体制作りを行う。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	沖縄県は、集住する外国人は少なく、散在しているため、日本人側の多文化共生への関心はまだ低い。外国人の数は年々増えている。地域の日本人をまきこんだ日本語教室の開催や講演会、交流会を通して、身近にいる外国人の存在を意識し、住民の1人としてコミュニティーに受け入れる意識改革が求められている。また、沖縄県多文化共生国際交流連絡会で、たびたび離島地域の日本語教育が話題としてあがっている。現在は退職教員を中心に試行錯誤しながら教室を立ち上げている地域（宮古島市）もあるが、在住外国人から日本語教室開設の要望があっても、まだ十分に対処できていない地域（石垣市など）がほとんどである。教材さがしや日本人ボランティアの募集方法など、ノウハウがなくて前に進めていないのが現状だ。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	1日本語教室では面接等就職のために必要な日本語の勉強を2ヶ月に1回程度行うとともに、緊急時に通訳できる語彙力を養成する。2地域の人たちに自国の文化を知ってもらう大交流会を開催し、日本語教室の存在を広報しながら、日本語教室の必要性への理解の促進をはかる。3日本語教室を手伝う日本人のために「やさしい日本語」の勉強会を企画し、教室の活性化につなげる。4離島地域の有志と連絡を取り合い、行政や支援の可能性のある団体に日本語教室の意義を伝え、実践できる体制を作る。
事業の実施期間	平成28年6月～平成29年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	比嘉 久枝	沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課
2	上原 徳一郎	那覇市総務部平和交流男女参画課
3	根来 全功	沖縄県国際交流人材育成財団
4	大仲 るみ子	特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター
5	藤崎 敦	沖縄国際人材支援センター
6	瀬底 あけみ	沖縄国際人材支援センター
7		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年7月20日 (水) 11:00～12:00	1時間	那覇市5階会議室	比嘉久枝 上原徳一郎 大仲るみ子 藤崎敦 瀬底あけみ	1. 今年度事業の概要について 2. 事業の目的と意義について意見交換
2	平成29年1月24日 (火) 11:00～12:00	1時間	那覇市5階会議室	比嘉久枝 上原徳一郎 根来全功 大仲るみ子 藤崎敦 瀬底あけみ	1. 事業の進捗状況 2. 事業評価に向けた検討
3	平成29年3月13日 (月) 11:00～12:00	1時間	那覇市5階会議室	山川優(比嘉代理) 上原徳一郎 根来全功 大仲るみ子 藤崎敦 瀬底あけみ	1. 今年度事業の総括 2. 事業評価に関する討議
4					

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	これまでも沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課ならびに那覇市総務部平和交流男女参画課、また沖縄県国際交流人材育成財団の3団体とは、H25年以降文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育事業の運営委員会を通して、地域における外国人の諸問題について意見交換を重ねてきた。今年度の事業として離島地域である宮古島市ならびに石垣市の日本語教室の担当者と連絡をとり、意見交換をできたことは、今後の両地域における地域日本語教育の推進に向けた体制作りの第一歩と言える。また沖縄県多文化共生国際交流連絡会を構成する沖縄NGOセンターその他多くの団体と、県内在住の外国人に関する情報交換ならびに施策提言に向けた話し合いを行ってきており、今後も各地域での日本語教育の推進に、この連絡会参加諸団体と連携、協力を深めていきたい。また日本語教育の内容に関しては学校法人ゴレスアカデミーの全面的協力を得ている。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業体制の実施	今年度は、日本語教師を中核メンバーに新たに迎え、これまで継続してかかわってきた日本語指導者補助者との連携を強化して、日本語学習者のニーズを敏感に把握し、日本語教室に工夫を重ねてきた。今年で4回目となる大交流会は、普段あまり見ることがない外国の文化を体験する機会として徐々に地元に浸透してきており、日本語教室に関わってきた日本人が積極的に受講生をリードして準備を進めた。また日本語指導者補助者やボランティア参加者が「やさしい日本語」の知識を得ることさらに的確な指導ができる体制の整備を行ってきた。一方、離島地域の日本語教育に関しては、コーディネーターが現地に赴き、有志らと課題について話し合い、今後も協力関係を強化させていくことを確認した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞									
取組1	取組の名称		日本語教室						
	取組の目標		受講生が必要としている日本語学習を、それぞれの要望に応じて提供できるよう、教材の選択肢を増やして、学習満足度を高め、日本語力の向上をめざす。特に仕事を探している受講生が積極的に就職活動ができるよう応援していく。						
	取組の内容		1.平成27年度に作成した電子端末を使って検索できる教材リストを用いて、受講生のニーズにあった教材を選択して学習に取り組む。 2.これまでかかわってきたスタッフのサポートで、受講生が日頃感じている疑問や不安を話せる場を作る。 3.就職を希望する受講生のために、1、2か月に1回程度就職活動に詳しい講師を招き、仕事の探し方や日本の会社についての話をしてもらう。 4.日本の生活になじめるよう、日本や沖縄の文化を適宜紹介していく。 5防災時に通訳ができるように、身体的なこと、自然災害に関する語彙や知識の習得に力をいれる。						
		空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	☐ 取組による体制整備		日本語指導者養成講座を受講したスタッフを中心に、地域外国人に目を向け、積極的に交流を推進していく日本人を増やしていくことを通して、地域外国人が住みやすい街づくりの体制を作っていく。						
	取組による日本語能力の向上		少人数のグループに分かれて、それぞれ自分が取り組みたい課題をもってきて日本人が指導するという形だったので、来たばかりの人は生活に必要な日本語を、滞在が長い人は、生活に必要な漢字の習得、というように、ニーズにあった学習ができ、日本語能力を向上させることができた。						
	参加対象者		地域在住の外国人				参加者数 (内 外国人数)		68人 (49人)
	広報及び募集方法		チラシ配布 フェイスブック、ホームページで告知						
	開催時間数		総時間 60時間(空白地域 時間)			1回 2時間 × 30回			
	主な連携・協働先		那覇市総務部男女参画平和交流課 学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院						
	開催場所		学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院 3階教室						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		2	0	0	3	7	1	2	2
台湾(3人)香港(1人)スリランカ(1人)シンガポール(1人)イラン(1人) イタリア(2人)スペイン(2人)フランス(3人)アイルランド(1人)ドイツ(1人)ベルギー(1人)イギリス(1人)オランダ(1人) アメリカ(7人)ボリビア(2人)ドミニカ(1人)ペルー(1人)アルゼンチン(2人)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年6月29日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	10	開講式 オリエンテーション 自己紹介	スケジュールの説明と勉強したい内容を各自持つてくるように話す。		藤崎敦	下門礼子 新垣由美 津波古洋子 仲田佳世
2	平成28年7月6日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	9	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する人、お金の数え方を勉強する人に分かれて、日本人と勉強する。		藤崎敦	太田雅子 新垣由美 津波古洋子 根路銘マリア 仲田佳世
3	平成28年7月13日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	9	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する人、助詞を勉強する人に分かれて、日本人と勉強する。		藤崎敦	太田雅子 下門礼子 新垣由美 津波古洋子 根路銘マリア 仲田佳世
4	平成28年7月20日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	8	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する人、数字を勉強する人に分かれて、日本人と勉強する。		藤崎敦	太田雅子 西原智子 新垣由美 津波古洋子
5	平成28年7月27日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	9	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	レベルに別れて、世界地図をもとに、自分が行ったことがある場所について会話する。		藤崎敦	新垣由美 根路銘マリア 仲田佳世
6	平成28年8月24日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	9	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	防災講座を「やさしい日本語」を受講する日本人と一緒にうける。		藤崎敦	太田雅子 嘉手苺則子 新垣由美 津波古洋子 根路銘マリア
7	平成28年8月31日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	12	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する人、スーパーのチラシの語彙を勉強する人に分かれて、日本人と勉強する。		藤崎敦	太田雅子 嘉手苺則子 新垣由美 津波古洋子 根路銘マリア 仲田佳世
8	平成28年9月7日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	9	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	挨拶の仕方、歴史のことは、JLPTに向けての勉強などをグループで行う。		藤崎敦	西原智子 新垣由美 津波古洋子 根路銘マリア 仲田佳世
9	平成28年9月14日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	12	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	漢字や助詞、カタカナなど、それぞれの勉強したいものを学ぶ。		藤崎敦	太田雅子 西原智子 津波古洋子 根路銘マリア 仲田佳世
10	平成28年9月21日 (水) 18:30～20:30	2	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院3階教室	6	小グループに分かれて、レベルに合った教材で学習	文型の練習、会話の練習などを行う。		藤崎敦	太田雅子 新垣由美 津波古洋子 仲田佳世

11	平成28年9月28日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	7	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	食事に関する語彙を学び、朝ごはん の文化の違いについて話し合う。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 新垣由美 津 波古洋子 根路銘 マリア 仲田佳世
12	平成28年10月5日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	10	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	漢字を勉強する人、形容詞を学ぶ人、 JLPTを勉強する人に分かれて、日本 人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 西原智子 新垣由美 津 波古洋子 根路銘 マリア 仲田佳世
13	平成28年10月12日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	9	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する 人、JLPTを勉強する人に分かれて、 日本人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 新垣由 美 津波古洋子 根 路銘マリア 仲 田佳世
14	平成28年10月19日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	16	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	久しぶりにみんなで自己紹介。その後 それぞれが勉強したいことを日本人と 学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 新垣由美 津 波古洋子 根路銘 マリア 仲田佳世
15	平成28年10月26日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	8	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	JLPTが近づき、対策問題をする人が 増える。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 嘉手刈則子 仲田佳世
16	平成28年11月2日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	9	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	挨拶の練習、ひらがなカタカナのよみ の練習をして、新しい人にみんなの前 で自己紹介をしてもらう。	藤崎敦	太田雅子 新垣由 美 津波古洋子 仲田佳世
17	平成28年11月9日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	6	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	漢字を勉強する人、JLPTを勉強する 人、それぞれ日本人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 新垣由美 津 波古洋子
18	平成28年11月16日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	8	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	介護に関する語彙を学ぶ人、ひらがな の練習をする人、感じを学ぶ人、それ ぞれが日本人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 新垣由 美 津波古洋子 根 路銘マリア 仲 田佳世
19	平成28年11月24日 (木) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	6	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	初級の勉強、言葉の勉強、平湯の勉 強、それぞれ日本人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 仲田佳世 新垣由美
20	平成28年11月30日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	5	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	簡単な教材を読んだり、JLPTの勉強 をしたりする。	藤崎敦	下門礼子 新垣由 美 津波古洋子 仲田佳世
21	平成28年12月7日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	8	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	家族に関する言葉を学んで会話の練 習をする。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 下門礼子 新 垣由美 津波古洋 子 仲田佳世
22	平成28年12月14日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	12	クリスマスパーティー	1人一品もちよって、パーティーをす る。久しぶりに来る人もいて、日本語ク イズなどをしながら、交流を深めた。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 下門礼子 新垣由美 津波古洋子 根路銘 マリア 仲田佳世
23	平成29年1月11日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	4	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	正月について話し合う。	藤崎敦	津波古洋子
24	平成29年1月18日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	5	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	自分の国について、レベルに分かれて 話し合う。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 津波古洋子 仲田佳世
25	平成29年1月25日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	7	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	自己紹介や自分の国の紹介、漢字や 生活で使うことばの学習をした。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 新垣由美 津 波古洋子 仲田佳 世
26	平成29年2月1日 (水) 18:30~20:31	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	8	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	敬語を学ぶグループ、日本と自国の 違いを話し合うグループ、それぞれで 学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 嘉手刈則子 新垣由美 津波古 洋子 仲田佳世
27	平成29年2月8日 (水) 18:30~20:32	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	7	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	自国と日本のちがいが、日本のいいと ころなどを日本語で話す。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 下門礼子 嘉 手刈則子 新垣由 美 仲田佳世
28	平成29年2月15日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	8	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	ビジネスの常識など、日本の習慣につ いて話し合う。	藤崎敦	太田雅子 下門礼 子 新垣由美 津 波古洋子 仲田佳 世
29	平成29年2月22日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	9	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	グループごとの学習の後、雛人形を紹 介して、日本の文化を学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 下門礼子 新 垣由美 仲田佳世
30	平成28年3月1日 (水) 18:30~20:30	2	学校法人ゴレス アカデミー日本文 化経済学院3階 教室	9	小グループに分かれ て、レベルに合った 教材で学習	漢字を勉強する人、会話を勉強する 人、数字を勉強する人に分かれて、日 本人と勉強する。	藤崎敦	太田雅子 西原智 子 嘉手刈則子 新垣由美 仲田佳 世

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成28年6月29日】

本日から始まる日本語無料レッスンに向けて、これまで市役所などの公共施設やお店にチラシを配ったりSNSで告知を行ってきた。そのチラシを持って参加する人もいる。最初に簡単な開講式として、主催者のあいさつ、そしてスケジュールを確認し、今回からテーマを決めず、受講者自身で目標を決めその目標の達成のために勉強することを知らせる。まずはグループに分かれて自己紹介をかねて、「最近どこへいった?」というアイスブレイクゲームをして盛り上げる。その後、次回からどんな勉強がしたいか話し合ってもらったところ、ひらがなとカタカナを勉強したいという人、会話を伸ばしたいという教材を選ぶ人、JLPTを目指した勉強したいという人など様々でそれぞれに合わせた教材もみせたりした。問い合わせも多数来ており今後も受講者が増えることが予想される。



○取組事例②

【第2回 平成28年7月6日】

今年度はテーマを決めずにグループごとにレベルにあった教材を選んで学習するというスタイルをみなよく理解してくれて、お金の数え方を勉強するグループ、漢字を勉強するグループ、教材を使って「これ」「それ」「あれ」の使い方を勉強するグループなどに分かれて楽しそうに勉強していた。去年も参加していたドイツからの留学生が来週帰国するということで、日本人と受講者で寄せ書きをその場で書き、記念写真をとった。今回から、最後にみんなで集まって、「今日何を勉強したか」を発表してもらい、カードに書き込んでホワイトボードに貼り出すことにした。日本人へのひきつぎにもなるし、どんな人がこの教室にいるのかお互いにわかって、終わってから、あちこちでおしゃべりするグループができた。



(2) 目標の達成状況・成果

参加者の数は10名前後と、特に大きく変化することはなかったが、20人ほどに取った対面アンケートでは、みな日本語の伸びはまあまあだが、いろんな人にあえて満足しているという答えが多かった。参加した国・地域も24にのぼり、一部の国にかたよることなくいろんな国の人がいたので、会話ははずんだ。互いの国について紹介したり、同じ言語圏同士で情報を交換したり、孤立しがちな外国人が楽しめる場が提供できた。終わりごろには、もっと勉強したい、4月からはどうなっているのか、という質問も多く、継続への期待の高さを感じる。最初はボランティアで参加した人たちが指導者補助者としてこの日本語教室の運営に参加しはじめて、3年。常にだれかが教室にいて、受講生を迎える態勢が整えられ、それが受講者の安心を生んでいると思う。今後2年で自律して指導者補助者たちが日本語教室を運営できるような方向にもっていければいいと思う。

(3) 今後の改善点について

11月以降の冷え込む時期から受講生が減ってきたことは、スケジュールを作る上で、検討を要する。また週1回の教室では学習の意欲を保つことがなかなか難しいなど、受講生のモチベーションをいかに上げるかが課題だ。月に一回は日本の文化を体験できるようなイベントを企画したり、自分の国についてみんなの前で発表する機会を作ったり、継続できる工夫を考えていきたい。来なくなった受講生へのフォローが足りなかったという反省もある。連絡がつく人には、春先にパーティーをひらいて、今回の日本語教室について直接意見を聞く場を作りたいと考えている。また、当初は就職を希望する人のための就活講座を月に1回程度考えていたが、受講生に仕事を探している人がほとんどいなかったため、行わなかった。全体で取り組むよりも、必要な人に、履歴書の書き方や面接の注意などを行えることを学習メニューの中に加えて受講生に提示する形のほうがいいと思う。

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【平成29年3月5日】

今年も日本語学校の日本文化経済学院と共催となり、2階にステージを設置し、フードコートは正面の道路の使用許可をとって歩行者天国にして、テントをならべた。食事がゆっくりできて、また販売時間も2時間に限ったので、参加者は食事の後2階のステージをゆっくり鑑賞できた。また、昨年の反省から、子連れの人たちが楽しめるように空き教室にマットをしいた保育室を作ったので、親子連れに好評だった。日本語教室からは、イギリスとペルー、スリランカの受講生が料理を作り、来場者にふるまった。食事はどれも人気で、1時間ほどで、ほとんど売切れとなった。

ステージでは各国の民族衣装の紹介や、日本語学習の成果の発表、それぞれの国の歌やダンスの紹介でもりあがった。日本語教室の受講生のスペインのカルロスさんもフラメンコを披露する予定であったが、時間が合わず、キャンセルとなり残念だった。最後に1階の路上で外国人によるエイサーが披露され、沖縄の文化に興味をもつ隣人の姿に感動したという日本人の声が聞かれた。



(2) 目標の達成状況・成果

予想以上の来客で、みな楽しそうだった。特に日本へ来たばかりのペルーの受講生が日本人と組んで50人分の料理に挑戦し、日本語、スペイン語をおりまぜて交流を楽しんでいた。手伝う日本人側も4回目なので要領よく買い物や仕事の分担を決めて、当日の準備にあたることができた。ステージでは、自国の踊りや歌はもちろん、日頃の日本語学習の成果として日本の歌やダンス、劇が披露され、日本に住む外国人が日々奮闘している姿を日本人にみせることができ、理解の促進につながった。

(3) 今後の改善点について

実行委員会を作って取り組む計画だったが、スケジュールがなかなかあわず、結局日本語教室のあとで数回話し合うだけで、日本語教室としての取り組みが十分ではなかった。プログラムも、発表するものが多かったが、もっと日本人と外国人が一緒に楽しめるクイズのようなプログラムを考えて行きたい。

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

那覇での開催【第1回 平成28年8月23日】

最初に主催者を代表して、理事長より挨拶があり、その後杉本氏の講演に入る。

ワークショップ形式ということで、4-5人でテーブルを囲み、なぜ「やさしい日本語」に興味をもったかなどを自己紹介。その後テキストにそって「やさしい日本語」の必要性、できた経緯、実際に東日本大震災で活用された例などを聞く。

次に「火の元を確認する」などをグループごとに「やさしい日本語」に直してみるが、漠然としたイメージをことばにすると、ひとりひとり違っていて、あらためて日本語のあいまいさを実感する。他のグループの発表を聞いても、全然解釈がちがっていて驚いた。

いよいよ「やさしい日本語」の基本ルールの説明に入り、1項目ずつ、何が難しくどう直していくのが丁寧に語られ、非常に分かりやすかった。普段何気なく使っていることばの一つ一つが矛盾にみちていて、外国人の理解を妨げているということがよく分かった。

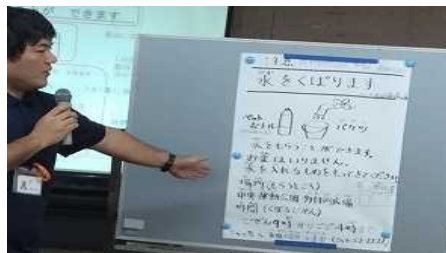


○取組事例②

石垣での開催【第1回 平成29年1月18日】

当初は市役所職員のみを対象にする予定だったが、新聞に投稿するなどして一般からの参加も募ったところ、6名の参加があった。最初に、なぜ「やさしい日本語」ができたのか、という経緯を阪神淡路大震災、東日本大震災の際のエピソードをまじえ、紹介される。次に「火の元を確認する」などをグループごとに「やさしい日本語」に直しながら、定義のあいまいさを確認し、辞書をひいても分かりづらいことばが日本語にあふれていることに気付かされる。

続いて「やさしい日本語」の12の基本ルールを実例を挙げながら説明した。普段日本人が使っていることばの一つ一つが外国人にとって難しいこと、イラストや写真、大きい文字が理解を助けることが、だんだんと理解されていく。最後に情報をポスターにする、というワークを3グループに分かれて取り組む。実際自分で書こうとして、はじめていろんな疑問がでてきた、とか、このことばを使っているのかわからない、などの声があり、インターネット上でとれるさまざまな情報、特に「やさしい日本語作成のためのガイドライン」が紹介され、参考として京都で発行されている「やさしい日本語」で書かれた「防災ガイドブック」を説明して、駆け足の講座を終了した。



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。

講師の説明が非常に分かりやすく、「やさしい日本語」の必要性を参加者皆が理解できた。那覇の講座で2日目に外国人とともに防災講座を受講したことが日本人に新鮮だったようで、これまで日本語教室に興味を持たなかった人たちにも、どのような人たちが学んでいるのか、コミュニケーションをとるのに、どのようなことが必要なのか、体験してもらうことができ、日本語教室、やさしい日本語双方の意義を実感してもらえたことは、大きな成果だ。また石垣市においては、全部署から1名ずつが受講し、はじめてやさしい日本語という言葉聞いた、という人もいたが、外国人の視点から日本語を見直して、明日からでも窓口対応に活かしていきたい、と発言する人もいて、庁舎全体にいきわたることを期待したい。

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

一通り教わってもなかなか定着は難しく、継続的に勉強会を開く必要性を感じている。一人ひとりがやさしい日本語の地域での普及の担い手になれるような勉強会を今後企画していきたい。また、やさしい日本語の勉強会を外国人とともに学ばなかに、外国人にとっても日本語理解が深まる可能性を感じている。

＜取組4＞									
取組 4	取 組 の 名 称		離島地域における地域日本語教室の充実						
	取 組 の 目 標		離島地域に暮らす外国人が日本語を学習する場を確保する。						
	取 組 の 内 容		平成27年度に作成したインターネットを使った、レベル別・項目別学習教材の使い方を紹介することを通して、経験不足を懸念する当該地域の主宰者と教室運営の課題を共有して解決に向けた話し合いを個別に行い、実践に結びつける。具体的には、コーディネーターが現地の日本語教室を訪ね、学習内容の希望等を聞きながら、それぞれの主宰者と充実に向けた方策を探った。						
		空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		宮古島市、石垣市ですでにスタートしている地域日本語教室の充実ははかる。						
	取組による日本語能力の向上		直接日本語を指導したわけではないが、担当講師の悩み、課題を共有し、ともに解決の道をさぐる事が、日本語教室の充実につながり、ひいては各受講生の日本語能力の向上につながると思う。						
	参加対象者		地域の日本人、地域在住の外国人				参加者数 (内 外国人数)	21人 (12人)	
	広報及び募集方法		個別に連絡をとり、訪問する。						
	開催時間数		総時間 19時間						
	主な連携・協働先		石垣市役所市民生活課 宮古島市社会福祉協議会						
	開催場所		石垣市役所 宮古島市役所 宮古島市下地老人福祉センター						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
			4			5			1
シンガポール(1)バングラデシュ(1)アルゼンチン(1)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年8月1日 (月) 18:30～20:30	2	レストラン 和風亭		日本語教室開催の可能性について	知り合いの外国人が漢字が読めなくて困っているので個人的に教えているが、もっと広く教えたいという相談		瀬底あけみ	なし
2	平成28年8月2日 (火) 10:30～14:00	2.5	コンチネンタルホテルラウンジ		石垣市の日本語教室の現状	立ち上げ経緯、参加メンバー、募集方法、また教材について		瀬底あけみ	なし
3	平成28年8月2日 (火) 15:00～16:00	1	バングラデシュ出身の店主の店		バングラデシュ人の日本語学習の必要性について	国籍をとるときは漢字学習が必要だったが、今は余り生活上で必要性を感じない。		瀬底あけみ	なし
4	平成28年8月2日 (火) 19:00～21:00	2	レストラン大戸屋		アルゼンチン人の日本語学習の必要性について	時間がなくて教室があっても通えないが、勉強したい気持ちはある。		瀬底あけみ	なし
5	平成28年8月3日 (水) 10:00～11:00	1	石垣市役所		市民生活課訪問	地域在住外国人のために日本語教室の拡大についての意見交換と、やさしい日本語の内容説明		瀬底あけみ	なし
6	平成28年8月3日 (水) 18:30～21:00	2.5	宮古島市下地老人福祉センター	8人	日本語教室見学	生活の中で見聞きして分からなかった日本語を持ち寄って、使い方を学んでいた。		瀬底あけみ	なし
7	平成28年8月4日 (木) 10:00～12:00	2	宮古島市役所		防災危機管理班、福祉部福祉調整課、企画調整課訪問	それぞれで地域外国人のための施策の必要性について話す。		瀬底あけみ	なし
8	平成28年8月5日 (金) 10:00～12:00	2	レストラン 和風亭		ベトナム人の日本語学習の現状について	宮古島市内在住のベトナム人の現状と子どもたちの教育問題や母親たちの日本語学習の課題について聞く。		瀬底あけみ	なし
9	平成28年8月5日 (金) 15:00～16:00	1	宮古島市教育委員会		宮古島市の外国人の日本語教育について	必要性は理解するが、手が回らないのが現状。人材を活用する意味でも考えて行きたい。		瀬底あけみ	なし
10	平成28年11月5日 (土) 14:00～16:00	2	石垣市役所		市民生活課訪問	やさしい日本語講座開催に向けた打ち合わせ		瀬底あけみ	なし
11	平成29年1月6日 (金) 18:30～20:30	1	沖縄国際人材支援センター事務所		宮古島市多文化共生シンポジウムに向けて	日本語教室を軸とした地域在住外国人との共生を考えるイベントの必要性		瀬底あけみ	なし

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

平成28年8月3日 宮古島市下地老人福祉センターで行われている日本語教室を見学する。担当の先生は、医療関係の相談員が本業で、いろんなところに関わっていて忙しい人だが、地域で暮らす外国から来た人たちの助けになるなら、と去年から教え始めた。参加者はフィリピン、ベトナムのお嫁さん。みんな仕事をしているので、日常聞くことばを持ち寄って、関連することばを勉強している。長音・短音等聞き間違いが多い言葉をノートにとって、何度も発音しながら、違いを確認している。漢字も意欲的だが、なかなか進まない、とみな悩んでいる。今日は市内の地区の名前の漢字を学んでいた。国籍をこえて協力しあい、教えあい、仲がいい。終わってから担当の先生と話す。日本語を教えるというよりは、子供の学校からのお知らせや、役所の申請書類、運転免許の取り方など、生活に必要な日本語と一緒に読むことで、本人たちの要望に応えているという感じだ、と言っていたが、それが一番地域日本語教室にとって必要なのではないかと思った。



○取組事例②

平成28年8月2日 石垣市日本語教室のメンバーに会う。教える人がいれば、場所は市役所が提供すると約束してくれたので、受講生たちが退職したばかりの国語の先生を探して、この7月から月に1回、始めたばかりだ。レベルが違いすぎると難しいので、以前から顔見知りの在住歴が5年以上の日本人の配偶者が7人集まった。国籍はシンガポール、フィリピン、アメリカ、タイ。夏休みで帰国している人が多いということで、そのうちの2人しか会えなかった。1回目の教材はニュースにふりがなをふったもので、言葉も漢字も難しかったが、英語の訳もあるので、何とかみんなで最後まで読んだそうだ。今後はどんな教材で学びたいのか、メンバーの意見を聞く必要がある。教師も手探りの状態ではあるが、みんなが意欲的なので、がんばらなければ、と思っている、と言っていた。那覇のイレスコの教室を見学に来るという話で終わった。



(2) 目標の達成状況・成果

地域の実情を知る上で、何名かの外国人に会って話を聞く一方、その地域のことは、なによりもまずその地域の行政が先頭に立たなければならないという視点から、石垣市、宮古島市の行政の担当を訪ね、意見交換を重ねたが、特に石垣市の市民生活課は「やさしい日本語」に興味をもってくれ、1月に2日間の「やさしい日本語」講座を開催できたことは成果である。宮古島市においては、ここ数年日本語教室の運営に携わっている方と現状の課題を共有し、一緒に宮古島市の各部署をまわることを通して、信頼関係を築くことができた。行政の応援を得ることで、宮古島市、石垣市ですでにスタートしている地域日本語教室の充実をはかることができれば、と考えている。付け加えていえば、本事業ではないが、3月に宮古島社会福祉協議会が開く多文化共生へ向けたシンポジウムに協力することになった。このように多方面で連絡をとりあい、協力しあう体制が作れたことは、成果だ。

(3) 今後の改善点について

石垣島の日本語教室は、まだ立ち上げたばかりで、今後も担当教師と改善策などを継続して話し合っていく予定。宮古島市の日本語教室の課題は、講師が1人だけで、その負担が大きいことだ。ボランティアの募集など、無理なく続けられる対策をともに考えて行きたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・沖縄県内在住の外国人が、日本語能力の不足によって誤解されたり、不利益を被ることのないよう、日本語力ならびに日本の文化習慣を学べる機会を作ることを通して、周囲の日本人にこうした在住外国人の存在を知らせ、彼らが抱える諸問題の解決のために日本人が積極的ににかかわっていけるような体制を整える。特に今回、那覇市での教室を継続させるとともに、離島地域での日本語教室の充実に向けて、現地の有志と連絡をとりあい、体制作りを行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

在住外国人が抱える諸問題に日本人側から関わっていくという目標については、それぞれの取り組みで「新たな気付きを得た」という感想が多く得られたことでも達成できたと感じている。また、今年は日本語教室において、日本語指導者補助者のメンバーが積極的に教材を提案したり、友人を見学に連れてきたりする姿が見られ、ボランティアとして参加する人も毎回1、2名いた。少しずつでも日本語教室の輪を広げていけたことは、今後につながる。

(3) 地域との関係者との連携による効果、成果 等

特にやさしい日本語を提案する中で、行政の関係者に關心をもってもらえたことは、在住外国人への配慮の必要性を理解してもらう糸口になった。また当法人の活動内容への理解が深まったことで、今後地域で暮らす外国人との共生事業を推進していくうえで、連携がとりやすくなった。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教室のチラシは、これまでは開始前に関係する場所に配布していただけたが、今年度は長丁場でもあることから、数回にわたって配布を行い、日本語教室が継続していることを知らせてきた。その成果か、3月の最後まで、一時期落ち込むことはあったが、コンスタントに受講生がきてくれた。また、SNS(フェイスブックやラインなど)は、登録した人にダイレクトに連絡ができ、情報伝達手段として有効であるだけでなく、何より緊急時に活用できるので、今後も連絡網の拡充に努めたい。日本語教室、やさしい日本語ともに、4月以降も有志で取り組み、地域に発信していきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

あらためて、日本語教室は、単に日本語学習の場ではなく、地域在住外国人にとってよりどころであることが、確認できた。そうした視点に立った日本語教室、交流会の企画が十分できていたのか、反省の余地がある。もっと受講者同士、受講者と日本人が親睦を深め、悩みを語れるような信頼関係を築くことが求められている。そのために、大交流会での企画をいかしていきたい。また、やさしい日本語の勉強も一過性に終わらせるのではなく、継続的に取り組み、総じて地域に在住外国人を受け入れて共に歩む全県的なネットワークを行政、関係諸団体といかに作っていくかが今後の課題だ。離島地域については、それぞれの日本語教室の充実に今後も関わっていく予定である。

(7) その他参考資料 (PDFで提出)

- 1.運営委員会議事録
- 2.外部評価
- 3.チラシ等
- 4.取組1日本語スタッフ会議議事録
- 5.取組2大交流会事業報告
- 6.取組2大交流会感想(一部)
- 7.取組3「やさしい日本語」事業報告
- 8.取組3「やさしい日本語」感想(一部)